



JSTCT

Letter No.101

Japanese Society for Transplantation and Cellular Therapy

一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会

January 2026

## 目 次

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 参加登録のご案内／プログラムの見どころ	ii - iv
認定・専門医制度委員会からのお知らせ	v - vii
HCTC委員会からの報告	viii - ix
投稿募集：APBMT公式電子ジャーナル「Blood Cell Therapy」	x
看護部企画「第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 看護プログラムの見どころ」	xi
私の選んだ重要論文「名古屋医療センター血液内科 今橋 伸彦 先生」	xii
施設紹介「岐阜県立多治見病院 血液内科」	xiii - xiv
会員の声「虎の門病院 血液内科 梶 大介 先生」	xv
各種委員会からのお知らせ	xvi

## ● 未納分年会費のご納入について

未納分の年会費につきましては、通年ご納入いただくことが可能ですので、学会HP「[年会費について](#)」をご参照の上、お早目にご納入いただきますようお願い致します。[会員マイページ](#)からクレジットカードでのご納入も可能となっておりますので、ご検討いただけましたら幸いに存じます。

[→学会HP「年会費について」](#)

## ● 本学会会員情報へのご登録内容変更につきまして

ご勤務先の変更等に伴いご住所、メールアドレス等会員登録情報に変更がございましたら、[会員マイページ](#)よりご変更いただくか、Eメール、FAX等にてお早目に事務局までお知らせください。

[→学会HP「登録情報の変更・休会・退会について」](#)

## ● ご登録いただいているご住所について

本学会では、会員の皆様に対する重要書類、学会総会抄録号などはご登録いただいている住所にお送りしています。宛先不明で返送されてしまった場合、それ以上の対応ができなくなるおそれがありますので、ご自身でのご対応をよろしくお願い申し上げます。

## ● ご登録いただいているメールアドレスについて

本学会では、皆様に対する各種ご案内の多くをEメールにて配信しておりますが、昨今、アドレス変更の届出漏れが多く、メールが不達となる会員の方も多数みられます。一定期間、事務局からのメールが届いていない方は、一度、事務局([jstct\\_office@jstct.or.jp](mailto:jstct_office@jstct.or.jp))までお問合せくださいますようお願い申し上げます。

【JSTCT事務局より】

## 第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 参加登録のご案内／プログラムの見どころ

会期：令和8年(2026年)2月27日(金)・28日(土)・3月1日(日)

会場：東京国際フォーラム

<https://convention.jtbcom.co.jp/jstct2026/index.html>

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 会長 福田 隆浩  
(国立がん研究センター中央病院・造血幹細胞移植科)

平素より学会活動に格別のご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

2026年2月27日(金)～3月1日(日)に東京国際フォーラムにて、第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会を開催いたします。メインテーマ「ひとりでも多くの患者さんに完治を」のもと、臨床現場の課題に直結する議論と、次世代を担う人材育成を両立させる総会を目指して準備を進めてまいりました。

本総会の一般演題採択数は557題とコロナ禍以降で最多となり、医師演題394題の半数以上が35歳以下の若手医師(医学部学生5名、初期研修医24名を含む)からの登録でした。ご登録・ご指導にご尽力いただいた皆さまに、心より御礼申し上げます。

移植成績向上に向けたAll Japanの取り組みなど臨床の最前線を見据えた企画に加え、医師・看護師・HCTC・リハビリ・薬剤師等、多職種の若手育成を重視した新しいプログラムを多数準備しております。

### 【新企画のご案内】

- 腹部超音波ハンズオンセミナー「HokUS-10：肝類洞閉塞症候群の診断」：実習定員30名に対し70名の応募をいただいております。聴講のみの参加も可能ですので、ぜひご参加ください。
- チーム医療セッション1「行動経済学を応用した患者・家族とのコミュニケーション法」：大阪大学の大竹文雄先生、医師・HCTC・看護師のパネリストとともに、医療現場の「うまく伝わらない」課題に取り組みます。
- チーム医療セッション2「移植患者の食事制限緩和を目指した全国調査」：施設間差の大きい食事制限の現状を共有し、今後の対策を聴衆参加型で議論します。
- チーム医療セッション3「移植患者の晩期ケアを語る」：医師・看護師・管理栄養士・理学療法士・MSWの多職種で、2つのシナリオに基づくディスカッションを行います。
- 特別公開講座「血液内科・生殖医療・患者がつくる連携のかたち：もし、妊孕性温存のことを聞かれたら、あなたならどう答えますか？」：多数の医師・看護師・HCTCの参加をお待ちしています。

## 【職種別の見どころ(抜粋)】

### ■ 医師

12のシンポジウム(SY)、4つのスポンサードシンポジウム(SSY)、パネルディスカッション、会長シンポジウム、KSBMTとの合同シンポジウム(JS)等を予定しています。

- **臨床研究**：会長シンポジウム(国内外の臨床研究グループを率いる3名)、WG成果発表会(日本の移植登録一元管理プログラムから発表された臨床研究のダイジェスト：オンデマンド配信あり)
- **疾患**：リンパ腫：SY2「CD19-CAR-T細胞療法」、日韓JS「T/NKリンパ腫」、パネルディスカッション「大細胞型B細胞リンパ腫に対するCAR-T・二重特異性抗体・移植の使い分け」、その他の疾患：SY1「再発高リスクAML」、SY7「成人T細胞白血病リンパ腫」、SSY3「多発性骨髄腫」
- **移植ソース／GVHD予防**：SY4「PTCy」(症例検討30分)、SY8「CBT」(症例検討30分)、SY11「骨髄バンク」、造血幹細胞移植推進事業フォーラム
- **基礎研究**：SY5「免疫逃避」、SY6「遺伝学的検査導入の影響」、日本組織適合性学会共催企画SY3「HLA情報に基づくドナー選択(症例検討30分)」
- **移植後合併症**：SY10「急性GVHD」、SSY1「慢性GVHD」、SSY2「真菌感染症」、SSY4「ウイルス感染症」、SY9「予防接種」

教育講演では、移植後外来診療も含む臨床関連6演題に加えて、臨床研究をこれから始める若手医師を支援する6演題を準備しました：EL9「研究・留学のすすめ」、EL1「臨床研究のアイディア」、EL4「EZR初心者講座」、EL5「EZRアドバンスド講座」、EL8「倫理審査」、EL6「論文作成に使えるAI活用法(医師による医師のためのChatGPT入門の著者である大塚篤司先生へ依頼)」。

また移植領域の基礎をマスターできる「2026認定医申請のための教育プログラム」はオンデマンド配信を予定しています。

Meet the Expertは講師1名に対し参加者8～10名程度のラウンドテーブル形式で、若手医師が直接対話できる機会となることを期待しています(海外講師4名、国内講師9名予定)。2月上旬にメール・学会ホームページで募集をご案内します。

### ■ 看護師

看護シンポジウム(NSY)「移植看護師の育成」を予定し、「看護グループミーティング」には86名の応募がありました。教育講演として、NEL1「移植看護初心者向けの患者指導の実践講座」、NEL2「移植治療における看護の実践力を高める」など、若手看護師向け企画を用意しています。

### ■ HCTC

2月27日にHCTCラウンジ(グループミーティング：130名、委員会活動報告)を開催します。HCTCワークショップ「海外在住ドナーのコーディネート」、HCTCラウンドテーブル

「HCTCの困りごとへの対応」等を予定しています。最終日のHCTC認定セミナー後には、造血器腫瘍遺伝子パネルへの対応として「教育講演12：パネル検査初心者講習」にもぜひご参加ください。

## ■ リハビリテーション

SY12「運動と栄養で築く移植後サバイバーシップ」では、愛知医科大学病院・栄養治療センター 前田圭介先生にご講演いただきます。続いて「リハビリ全国意見交換会」も予定しています。

本総会は現地での交流を重視し、現地開催（ライブ配信なし）とし、学会終了後にオンデマンド配信を予定しております。1月20日までの前期登録者数は2,823名で、事前登録が必要なセッションの受付も始まっています。ランチョンセミナー・スイーツセミナーには2,000人前後の事前予約をいただいております。

プログラムの詳細は総会ホームページをご参照ください：

<https://convention.jtbcom.co.jp/jstct2026/program/index.html>

多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

## 認定・専門医制度委員会からのお知らせ

認定・専門医制度委員会委員長 黒川 峰夫

### ■ 第48回学術総会における認定医企画について

#### 1) 認定医申請のための教育セミナー

本年の教育セミナーは、WEBによるオンデマンド配信（公開期間中、受講者が自由にWEBにアクセスして閲覧する形式）での開講を予定しております。

#### 【オンデマンド配信期間】 2026年3月11(水)～5月11日(月) 予定

※聴講には第48回学術総会への参加登録が必要となります。

#### 【ご留意事項】

- ・事前の受講申請は不要で、公開期間中どなたでもご自由に聴講いただけます。
- ・単位取得には、聴講後、申請フォームから申請いただき、受講料を指定口座にご納入いただく必要があります。詳細は学会HP[こちらのページ](#)をご参照ください。
- ・「教育講演」とお間違えないようご注意ください。

【プログラム】例年の通り、以下の5分野10単位分のセミナー開講を予定しています。

No	分 野	細 目	講 師
①	(A) 同種造血幹細胞移植の適応とドナーの選択	成人	河村 浩二
②		小児	吉田 奈央
③	(B) 移植後の拒絶と移植片対宿主病	移植片の拒絶・生着不全とその対策	諫田 淳也
④		GVHDの診断と治療	森 康雄
⑤	(C) 拒絶・移植片対宿主病以外の移植後合併症	感染性合併症	井上 明威
⑥		非感染性合併症	渡邊 瑞希
⑦	(D) 骨髄・末梢血幹細胞の採取と処理、ドナーの安全性と管理	骨髄	名島 悠峰
⑧		末梢血	藤原 慎一郎
⑨	(E) 移植前処置の選択	成人	武内 正博
⑩		小児	石田 悠志

#### 2) 認定医更新セミナー

本年の更新セミナーは、会場開催およびオンデマンド配信での開講を予定しております。過年度を踏襲し下表の対象講演に対して更新単位を付与いたします。

セッション名	開催日時	会場	付与単位
教育講演①	2月28日(土) 8:50～9:20	第5会場	1単位
教育講演②	2月28日(土) 9:25～9:55	第5会場	1単位
教育講演③	2月28日(土) 10:00～10:30	第5会場	1単位
教育講演④	2月28日(土) 14:10～14:40	第5会場	1単位
教育講演⑤	2月28日(土) 14:45～15:15	第5会場	1単位
教育講演⑥	2月28日(土) 15:20～15:50	第5会場	1単位
教育講演⑦	3月1日(日) 8:45～9:15	第5会場	1単位
教育講演⑧	3月1日(日) 9:20～9:50	第5会場	1単位
教育講演⑨	3月1日(日) 9:55～10:25	第5会場	1単位
教育講演⑩	3月1日(日) 10:30～11:00	第5会場	1単位
教育講演⑪	3月1日(日) 14:40～15:10	第5会場	1単位
教育講演⑫	3月1日(日) 15:15～15:45	第5会場	1単位
会長シンポジウム	3月1日(日) 13:05～14:35	第1会場	2単位
シンポジウム1	2月28日(土) 8:50～10:20	第1会場	2単位
シンポジウム2	2月28日(土) 13:00～14:30	第1会場	2単位
シンポジウム3	2月28日(土) 14:40～15:55	第3会場	2単位
シンポジウム4	2月28日(土) 8:50～10:20	第4会場	2単位
シンポジウム5	2月28日(土) 13:00～14:30	第4会場	2単位
シンポジウム6	2月28日(土) 13:00～14:15	第6会場	2単位
シンポジウム7	2月28日(土) 14:25～15:55	第6会場	2単位
シンポジウム8	3月1日(日) 14:20～15:50	第2会場	2単位
シンポジウム9	3月1日(日) 14:35～15:50	第3会場	2単位
シンポジウム10	3月1日(日) 8:45～10:15	第4会場	2単位
シンポジウム11	3月1日(日) 10:00～11:00	第6会場	1単位
シンポジウム12	3月1日(日) 13:10～14:40	第14会場	2単位
チーム医療1	2月28日(土) 13:00～14:20	第2会場	2単位
チーム医療2	2月28日(土) 14:30～15:50	第2会場	2単位
チーム医療3	3月1日(日) 9:50～10:50	第2会場	1単位
JSTCT-KSBMT Joint Symposium	2月28日(土) 8:50～10:20	第7会場	2単位
パネルディスカッション	2月28日(土) 14:40～15:55	第1会場	2単位
造血幹細胞移植推進事業フォーラム	3月1日(日) 8:45～9:45	第6会場	1単位
プレナリーセッション	3月1日(日) 15:15～16:00	第1会場	1単位

※上記セッションは**3月11日(水)～5月11日(月)**の期間、オンデマンド配信も予定しております。ただし、都合により一部セッションがオンデマンド配信対象外となる場合がございますので予めご了承ください。



**【ご留意事項】**

- 会場での聴講、会期後のオンデマンド配信による聴講のいずれも単位付与の対象となりますが、同一のプログラムを会場とオンデマンド配信の両方で聴講した場合でも付与される単位は1回の聴講分のみとなります。
- 更新セミナーは、開始から終了まで通して聴講した場合のみ単位が付与されます。
- 単位取得のための申請等は不要です。(会場での聴講の場合は会員カードの打刻により、オンデマンド配信での視聴の場合はアクセスログより聴講履歴を取得します)。
- 取得された単位は、会員マイページへ反映いたします。作業完了次第、メールでお知らせいたします。作業にはオンデマンド配信期間終了後1ヶ月ほどかかる予定です。

## HCTC 委員会からの報告

### ご挨拶

HCTC委員会 委員長 矢野 真吾

造血幹細胞移植は新規薬剤や免疫細胞療法の登場により適応や位置づけが変化し続けており、それに伴いコーディネーターの役割も重要になっています。移植件数の増加や高齢患者の移植、国際的なドナー調整など、複雑化する現場において、HCTCの専門性と経験はますます重要性を増しています。本委員会では、全国のHCTCと情報共有や研修、HCTC活動標準化の推進に取り組んでいます。今後とも、HCTC委員会へのご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

### 「HCTC 認定講習Ⅱ」のご報告

HCTC 認定講習Ⅱの受講は、HCTC 認定申請に必須の要件のひとつです。認定講習Ⅰの受講を終え、HCTCとしての一定の活動経験と実務要件を満たす方を対象に、実践的なコーディネートスキルのレベルアップに必要な事項を学んでいただくことを目的としています。今年度は事前E-learningと、11月7～8日の2日間の対面研修で構成されました。対面研修はコロナ以降5年ぶりに開催され全国から21名のHCTCが受講されました。

事前E-learningでは、「認定HCTCに必要なHLAの知識」「小児ドナーの適格性について〈倫理を含めて〉～医師の立場から～」について学びました。講義をE-learningに切り替えたことで、対面研修では事例検討に特化した濃密な時間を確保できました。

事例検討では、「血縁者間コーディネート」について想定事例を用い学びました。1日目は事前課題を取り組んだ上で、患者コーディネートにおける初回面談から意思決定支援を学びました。2日目は血縁ドナーコーディネートで、初回電話から面談・HLA検査までの流れを、患者・ドナーそれぞれの支援について、講義やロールプレイ、グループワークで活発な意見交換をし、より実践的なコーディネートへの理解を深めました。





また、講習中の休憩時間に受講生同士の交流の場を設け、オンラインでは難しい、何気ない会話や様々な意見交換ができ、有意義な時間となりました。

受講生からは、「日々行っているコーディネート方法を振り返る良い機会になった」「ロールプレイをして登場人物の立場になることで改めて気付けることがあった」「グループワークでは自分とは違う意見を聞くことができ、考えの幅が広がり大変勉強になった」「他施設の方も同じ思いで臨まれていて頑張られている姿に励まされた」などの感想があり、実践的なコーディネートを学ぶことができ、より深い学びと、さらなるコーディネートスキルの向上につながったと考えます。

今後も HCTC の質向上を目指し、充実した研修を継続してまいります。引き続き、移植施設における HCTC の配置についてご理解賜りますようお願い申し上げます。



## 投稿募集：APBMT公式電子ジャーナル「Blood Cell Therapy」

APBMT (Asia Pacific Blood and Marrow Transplantation Group：アジア太平洋造血細胞移植学会) 公式電子ジャーナル「Blood Cell Therapy」は、2017年の創刊以来現在まで200編以上の投稿を受付け、acceptされた134編が公式ホームページ (<https://bct.apbmt.org/>) に順次掲載されています。2023年1月にPMCに収載され、現在はIF獲得に向けてESCIの最終審査の結果を待っているところです。近年ではIF取得雑誌が著増しており、各雑誌とも投稿数の確保はもちろん、質の高い論文の掲載が必須となっております。こうした状況下でBlood Cell Therapyは日本の先生方の論文数の増加が今後の雑誌の維持・発展に欠かせないと確信しています。これまでご投稿いただいた先生方に感謝申し上げますとともに、さらなる玉稿の投稿をお待ちしています。また、当学会の先生方には投稿だけでなく、査読についても多大なご協力を頂いており、この場を借りてお礼申し上げます。

Blood Cell Therapyは現在、投稿料・掲載料とも無料です。投稿に関する詳細につきましては、下記よりご確認いただき、ご質問等ございましたら日本語で編集事務局までお気軽にお尋ねください。Blood Cell Therapyに掲載された論文は日本造血・細胞療法学会評議員応募申請の際、Provisional Impact Factor (PIF) を5点としてScientific Contribution Score (SCS) に算定されることを申し添えます。よろしくお願い申し上げます。

### 《Blood Cell Therapy 投稿規定》

[https://bct.apbmt.org/for\\_authors/](https://bct.apbmt.org/for_authors/)

### 《お問い合わせ》

Blood Cell Therapy 編集事務局

飯田 美奈子

〒480-1195 愛知県長久手市岩作雁又1番地1

愛知医科大学細胞移植振興寄附講座

[miida@aichi-med-u.ac.jp](mailto:miida@aichi-med-u.ac.jp)

[office@apbmt.org](mailto:office@apbmt.org)

Tel: 0561-62-3311 (内線12375) Fax: 0561-61-3180

## 看護部会企画

## 第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会 看護プログラムの見どころ

奥田 生久恵（国立がん研究センター中央病院 看護部）

森 文子（国立がん研究センター中央病院 看護部）

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会は、会長の国立がん研究センター中央病院造血幹細胞移植科科長福田隆浩先生を中心に、多施設のプログラム委員の先生方や国立がん研究センター中央病院スタッフで鋭意準備を進めております。

今回の総会テーマは「ひとりでも多くの患者さんに完治を」です。医療チーム全体で造血細胞移植や免疫細胞療法の成果を確実に患者さんへ届けるために、看護師も治療の最前線で患者さんと向き合い、日々のケアや多様な支援を担っています。移植医療の現場では、忙しい病棟業務に加え、長期にわたる治療や合併症対応など、看護師が直面する困難は大きく、幅広い知識と判断力が求められます。こうした中で、若手が安心して学び、成長できる環境づくりは重要な課題です。看護プログラムでは、「移植治療を支える看護のやりがいをつなぐ」ことを目指して、次世代を担う人材を育む企画を準備しています。

### 1) 移植看護初心者向け企画

感染予防や口腔ケア、スキンケアなど、日常的な看護ケアだけでなく、患者にもセルフケアの力を発揮してもらうための患者指導の実践講座を予定しています。また、例年行っている看護グループミーティングには、素朴な疑問や迷いも話し合える「移植看護ビギナース」グループがあります。若手や移植看護経験の浅い皆様のご参加を心よりお待ちしております。申し込み方法は学会総会ホームページでご確認ください。

<https://convention.jtbcom.co.jp/jstct2026/nurse/index.html>

### 2) 移植治療を支える看護の意義を見出す企画

教育講演では、移植急性期の治療経過で重要な合併症管理を学び、患者さんの完治を目指して看護師が果たす役割を考えます。看護シンポジウムでは、「移植看護のやりがいをつなぐ」関わりについて討議したいと思います。行動経済学に基づいた患者教育の工夫、患者指導や後輩教育に活用できる動機づけ面接の方法など、現場で直面する課題に寄り添い、実践に役立つ企画もあります。

### 3) 患者さんのQOL向上を目指したチーム医療企画

「移植後の食事制限緩和」や「移植患者の晩期ケアを語る：栄養・運動・社会資源の融合」をテーマに、多職種で移植後患者の長期フォローを考えるセッションも企画しています。

完治と移植後の長期生存が望める一方で、晩期合併症など何らかの問題を抱えながら生活している患者さんも少なくありません。日々、支援に悩みながら患者さんに寄り添っておられる皆さまにとって、多職種で今後の支援を検討する機会になればと考えております。

第48回総会が、移植医療に携わるすべての医療者にとって学びと交流の場となり、明日の臨床を支える若手育成の一助となることを願っております。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



## 私の選んだ重要論文

Dou L, Zhao Y, Yang J, et al.

Ruxolitinib plus steroids for acute graft versus host disease: a multicenter, randomized, phase 3 trial  
Signal Transduct Target Ther. 2024 Oct 23; 9 (1) : 288.

急性GVHDの一次治療は、長年にわたり高用量ステロイドが標準とされてきた。しかし、その奏効率は50–60%程度にとどまり、ステロイド抵抗性症例の予後は依然として不良である。この課題を克服するため、これまでステロイドに他剤を併用することで治療成績の向上を図る試みが数多くなされてきたが、いずれも標準治療を凌駕する明確なエビデンスを示すには至っていない。

本論文は、新規発症の中間／高リスク急性GVHD患者を対象に、Ruxolitinib (RUX)／ステロイド併用療法 (RUX 5 mg/日 + mPSL 1 mg/kg/日, N = 99) とステロイド単独療法 (mPSL 2 mg/kg/日, N = 99) を比較した多施設ランダム化第III相試験である。主要評価項目であるday28の全奏効率は、RUX／ステロイド併用群92.9%、ステロイド単独群70.7%と、前者で有意に高かった ( $P < 0.001$ )。day56の全奏効率は85.9% vs. 46.5%、18か月のfailure-free survivalも57.2% vs. 33.3%と、いずれもRUX／ステロイド併用群で有意に良好であった。臓器別解析では、肝臓病変では症例数が限られ有意差は認められなかったが、皮膚・上部消化管・下部消化管病変ではday28の全奏効率がRUX／ステロイド併用群で有意に高かった。全生存、非再発死亡、再発、Grade 3以上の有害事象に両群間で有意差は認められず、血球減少や感染症の発症率も同程度であった。一方、ステロイドの累積投与量はRUX／ステロイド併用群で有意に少なかった。

本研究は、急性GVHDの一次治療において、試験治療が標準治療である高用量ステロイド単独療法を上回ることを示した初の前向き比較試験である点で高く評価される。ただし、本試験では両群で治療開始後の免疫抑制剤減量プロトコルが異なっており、非盲検デザインに起因する評価バイアスの可能性には留意が必要である。現時点では、本試験は急性GVHD一次治療におけるRUX併用を「新たな選択肢」として提示した段階と位置づけるのが妥当であろう。

また興味深い点として、RUXと併用されたmPSLの用量が、従来標準とされてきた2 mg/kgではなく1 mg/kgであった点が挙げられる。急性GVHDの一次治療におけるステロイドの重要性を否定するものではないが、本試験の結果はRUX併用下においてステロイドを減量できる可能性を示唆する。近年、慢性GVHDでは新規薬剤を用いたステロイド非依存型の一次治療を模索する動きが報告されており、慢性GVHDの一次治療におけるステロイド中心の治療戦略を再考する潮流が形成されつつある。本試験は、その潮流を急性GVHDの一次治療にも波及させ得るエビデンスとしても注目される。今後、適切な症例選択と追加検証を通じて、この流れが実臨床にどのように定着していくのかが注目される。

名古屋医療センター 血液内科

今橋 伸彦

## 施設紹介

## 岐阜県立多治見病院 血液内科

小澤 幸泰

岐阜県立多治見病院は岐阜県東濃地区ではほぼ唯一と言って良い基幹病院であり、血液疾患においても化学療法が必要な症例の多くが当院に集まってきます。東濃地区だけではなく中津川市や長野県の施設から患者を紹介されることもしばしばです。

当院は愛知県との県境にあり、名古屋の中心までJR中央線で30分、名古屋駅まで35分でつきますので、名古屋医療圏の一部に属しているといえます。現在名古屋大学血液内科から赴任している6人のスタッフで業務を担当しております。現在若手医師は不在ですが、2026年4月から後期研修医で血液内科を目指す医師が入ってきます。初期研修医にも是非若手内科医が一緒に仕事が出来るとなればと思い、勧誘を続けているところです。

当科は約35床の病床を有しており、計8室の無菌室が血液内科病棟で使用可能です。2023年4月より日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院から小澤が血液内科部長として赴任し、同種移植を開始できるようになりました。他職種の方の協力も頂き、スタッフの教育に時間をかけ、看護部、手術室、放射線部、検査部、薬剤部、理学療法部、栄養科、心理士などとのチーム医療体制を築いています。2024年1月には第1例目として血縁者間骨髄移植を施行しました。血縁者間の末梢血幹細胞移植、PTCYによるハプロ移植を含めて計5例の同種造血幹細胞移植を施行しました。

これらの実績から、2024年7月に日本骨髄バンクの骨髄採取施設に認定されました。これまでこの地区では骨髄採取可能な施設が極めて少なく、ドナーさんには愛知県に行って頂いていましたが近隣のバンクドナーさんからの採取が可能になりました。昨年には非血縁者からの末梢血幹細胞採取施設にも認定されています。同時に造血幹細胞移植コーディネーターも養成中であり、すでに拠点病院での研修を終え、認定HCTC獲得に向けて準備を進めています。



そして2025年3月には念願でありました日本造血・免疫細胞療法学会の移植施設認定を頂きました。同年にはJMDP, CBT等の全てのソースからの造血幹細胞移植が可能になり、年間8例の同種造血幹細胞移植を施行いたしました。

長期フォローアップ外来については、すでに当院で開始しており、看護師やコーディネーターの養成も順調に進んでいます。

最後に、当院は新中央診療棟を2024年4月30日に開設いたしました。これまでの古い建物からのリニューアルで患者さんの負担軽減が実現しました。診療機能の拡充として手術室を増設し、大変きれいで広くなりました。ただし麻酔科の問題で骨髄採取の枠は確保できず、他科の枠を借用している状態で、その点で毎回苦勞しています。末梢血幹細胞採取の方は血液浄化センターの協力でスムーズに進んでおり、今後はそちらの件数が増えることが予想されます。

今後も地域に根ざした診療を推進していく所存でありますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



## 会員の声

### 同種造血幹細胞移植で学んだこと、そしてCAR-T療法へ

虎の門病院 血液内科 梶 大介

日本大学の高橋宏道先生からバトンを受け取りました、虎の門病院血液内科の梶です。  
高橋先生の何事にも果敢にチャレンジされる姿勢には、いつも刺激を受けており、お会いする機会をいつも楽しみにしています。

さて、私は2009年4月に虎の門病院に前期研修医として入職して以来、現在に至るまで一貫して虎の門病院で勤務してきました。入職当初は、まだ志望科を明確に決めていませんでしたが、医師になったばかりの2009年4月から2か月間、いきなり血液内科に配属され、研修を行うことになりました。

当時の虎の門病院血液内科では、年間100件以上の同種造血幹細胞移植が行われており、特にハイリスク症例が数多く含まれていました。医師になったばかりの私も、多くの移植患者さんを担当することになりましたが、学生時代には耳にしたことのない病態や疾患を数多く経験しました。

なかでも印象に残っているのは、臍帯血移植症例を数多く経験したことです。移植後1～2週間ほどすると、ほとんどの患者さんが発熱しました。前期研修医として働き始めたばかりの私は、何が起きているのか分からず、教科書を調べても十分な記載はなく、対応に困っていました。その際、先輩医師から「Pre-engraftment immunoreaction (生着前反応)と呼ばれるもので、良い兆候だよ」と教えていただきました。そのとき、「目の前の患者さんから学ぶ」ということの意味を実感し、血液内科に強い興味を持つようになりました。

もともとは、医師3年目からは大学病院など他施設に移る予定でした。しかし、初期研修中の血液内科ローテーションは2か月間のみで、病態を十分に理解できたとは言えず、また、このような貴重な経験は症例数の豊富な虎の門病院だからこそ得られるものではないかと感じました。2年で虎の門病院を離れるのはもったいないと考え、残ることを決めました。

その後、当時部長であった谷口修一先生からお声がけいただき、幸運にもスタッフとして診療を続けることになり、現在に至っています。

研修医時代は、毎週のように同種造血幹細胞移植を経験していましたが、近年はCAR-T療法をはじめとする免疫療法にも強い関心を持つようになりました。虎の門病院血液内科は、同種移植の分野において全国的に知られ、ハイリスク症例にも積極的に取り組んでいましたが、CAR-T療法においても、同種移植と同様に全国をリードする存在となれるよう、日々奔走しています。今後の虎の門病院血液内科のさらなる発展に、ぜひご期待いただければ幸いです。

最後になりますが、今回は学会などでいつもお世話になっております、京都大学の新井康之先生にバトンをお渡ししたいと思います。新井先生、どうぞよろしくお願いいたします。

**次号予告** 次回は、京都大学大学院医学研究科 血液内科学 新井 康之 先生です！

## 各種委員会からのお知らせ

### 【賞等選考委員会】

2025年度の造血細胞移植功労賞の受賞者が決定いたしましたのでご案内申し上げます。

#### <造血細胞移植功労賞(医師)>

高上 洋一 先生(聖路加国際病院 元特別顧問)

河野 嘉文 先生(霧島市立医師会医療センター 病院長)

#### <造血細胞移植功労賞(非医師)>

橋本 明子 様(NPO法人血液情報広場・つばさ 理事長)

第48回日本造血・免疫細胞療法学会総会の会期中、以下の日程で授賞式がございますので、会員の皆様におかれましてはぜひご来場ください。

### ■ 造血細胞移植功労賞 授賞式

日時：2026年2月28日(土) 10時40分～11時35分

会場：東京国際フォーラム ホールC(第1会場)

※当日は学会の各種表彰式も合わせて実施いたします。

委員長 熱田 由子

一般社団法人 日本造血・免疫細胞療法学会 事務局

名古屋市西区那古野二丁目23-21-7d号(〒451-0042)

Tel: 052-766-7127 Fax: 052-766-7137 E-mail: [jstct\\_office@jstct.or.jp](mailto:jstct_office@jstct.or.jp) <https://www.jstct.or.jp/>